

## 低侵襲・がん治療センター

当院では全国的にみても早い時期から、外科、婦人科、泌尿器科、整形外科、耳鼻科などが内視鏡下手術を導入し、患者への負担の少ない手術、所謂低侵襲手術を行ってきた歴史があります。最近では、内視鏡下手術件数も増加の一途をたどっていますが、従来良性疾患に対する治療として登場してきた内視鏡下手術も、技術、機器の進歩および癌治療ガイドラインなどの登場により、徐々に悪性疾患にも応用されつつあります。癌に対する根治性を確保しつつ、同時に患者の負担を軽減することが可能になっています。実際、当院では、最近数年間の消化器・一般・呼吸器外科手術中、約 60%が内視鏡下に施行されています。一方では、不十分なトレーニング、技術不足などから全国的で医療事故が頻発しているため、当センターでは臨床面では最新の治療における安全性、根治性を高める努力をしながら、正しい技術を学ぶための教育（トレーニング）も同時に目標に掲げ、全国でも数大学しか保有していない中動物を用いたトレーニング施設を有し、臨床面、教育面で努力しています。

また、臨床研修センター内に、各種シミュレータを設置し、学生や研修医が実際の治療の前にトレーニングができる環境も整っていますが、内視鏡手術用シミュレータも用意しており、低侵襲・がん治療センターと連携して、従来よりも更に新しい機器でのトレーニングができるようになっています。

音声認識ロボットを用いた内視鏡手術風景



### 【プログラムの目的と特徴】

基礎プログラム：ブラックボックス、コンピュータシミュレーション、アニマルラボに加え、全国でも7大学でしか実施できない御遺体を使って行うカダバー手術トレーニングも2012年から開始しています。今後、更により臨床に近い形でのこのようなトレーニングも充実してゆく予定になっています。

臨床プログラム：スーパーローテーター、後期研修医に関わらず、各研修科において指導医のもと従来の手術および内視鏡手術の指導を受ける。特に消化器外科においては、実際に手術に参加し手術の助手として指導を受ける。また、基礎プログラムの習得状況に応じて、基本的な手術から段階的に術者も経験可能である。

低侵襲トレーニング施設の内観（オープンであり希望者は使用可能）



【経験目標】

安全な内視鏡手術が可能になるためには、従来の手術を充分理解する必要があるため、外科、婦人科、泌尿器科、整形外科などでの一般研修が基本である。

一般外科、胸部外科、小児外科の診療において、その約 50%が内視鏡手術であり、消化器・一般外科では渡部祐司、高井昭洋が指導にあたり、ベッドサイドや手術室では実際に手術助手として参加し指導をうける。

【指導医や指導体制】

消化管・腫瘍外科 渡部祐司（日本内視鏡外科学会技術認定医、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器病学会評議員、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本消化器がん外科治療認定医、日本食道学会食道科認定医）

肝胆膵・乳腺外科 高井昭洋（日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本がん治療認定医）

心臓血管・呼吸器外科 八杉 巧（日本外科学会指導医、日本静脈学会評議員、日本血管外科学会評議員、日本脈管学会脈管専門医、日本消化器学会認定医）

【研修に関する行事】

随 時：内視鏡手術トレーニング（低侵襲トレーニング施設）

【研修終了後について】

当センターは中央診療部門であり、研修終了後は各診療科において研修で培った技術等を発揮していただきたい。

【専門研修の問い合わせ先およびホームページ】

渡部祐司（センター長）：070-5515-6044 yuji@m.ehime-u.ac.jp

低侵襲・癌治療センター：<http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/class/divisions/class07-01/index.html>

低侵襲手術トレーニング施設：<http://www.m.ehime-u.ac.jp/hsp/emist/>